

定時制・通信制教育アップデートプラン（案）

- 近年、定時制・通信制高校は、働きながら学ぶことを前提とする勤労青年のための学びの場だけでなく、不登校や中途退学の経験者、外国にルーツをもつ生徒など、多様な学習ニーズをもつ生徒の学びの場が変わってきている。
- こうした生徒に対応していくため、地域社会や企業との連携・協働、専門的知識やスキルを有する外部人材の活用や個々の生徒の抱える事情に応じたきめ細かな支援などにより、新しい時代に対応した定時制・通信制教育にアップデートしていく必要がある。

1 定時制・通信制教育の現状とアップデートプラン

| 区分 | 課題を抱える生徒のイメージ* | 課題 | アップデートプラン | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|--|----|-----------|----|-----------|-----|-----------|-----|--------------|
| 通信制 2校 旭陵高校 刈谷東高校 | 不登校経験者 | 1 通信制へ進学する生徒の増加 <ul style="list-style-type: none"> 不登校を経験した生徒の学びの場となっている。 最近の不登校生徒の中には、学校を居場所として毎日でも学校へ行きたいという生徒が増えてきている。 ⇒生徒のニーズに柔軟に対応した広域通信制高校が人気となっている。 通学の日数（週1日、3日、5日）が選べる、駅近くで学習できる 等 県立通信制高校への入学者も、2021年度から急増している。 2020年度：430人→2021年度：477人→2022年度：675人（旭陵440人、刈谷東235人）（1.5倍に） ※入試日程を2月末から1月末へ早めた効果もあり。 2 旭陵高校の施設不足 <ul style="list-style-type: none"> 旭陵高校は、旭丘高校校舎を使用するため、スクーリングは日曜日に限られ、生徒が自由に通うことが出来ない。 刈谷東高校は、刈谷東高校昼間定時制校舎を共用するため、利用がやや制限される。 | 1 通信制のスクーリングを行うサテライト校 と 小規模の昼間定時制・単位制 を同じ学校内に設置（2025年4月開設） ⇒施設に余裕のある以下の高校に設置する ※地域バランスを考慮 <table border="1" style="margin: 5px 0;"> <tr> <td>海部</td> <td>佐屋高校（愛西市）</td> <td>知多</td> <td>武豊高校（武豊町）</td> </tr> <tr> <td>西三河</td> <td>豊野高校（豊田市）</td> <td>東三河</td> <td>御津あおば高校（豊川市）</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 現在の全日制を学年制から単位制へ改編 定員 通信制40人規模、昼間定時制20人程度/学年 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">通信制 ⇔ 昼間定時制（単位制） ⇔ 全日制（単位制）</div> <ul style="list-style-type: none"> 原則、コース間の行き来を自由にし、自分のペースで学べる環境をつくる。 添削指導のネット活用化、オンデマンドによる補習支援など、ICTを活用した通信制教育の充実。 仮想空間「メタバース」、分身「アバター」を活用した「学びのVRネットワーク」で、人との関わりやコミュニケーションが苦手な生徒をサポート。 | 海部 | 佐屋高校（愛西市） | 知多 | 武豊高校（武豊町） | 西三河 | 豊野高校（豊田市） | 東三河 | 御津あおば高校（豊川市） |
| 海部 | 佐屋高校（愛西市） | 知多 | 武豊高校（武豊町） | | | | | | | | |
| 西三河 | 豊野高校（豊田市） | 東三河 | 御津あおば高校（豊川市） | | | | | | | | |
| 昼間定時制 県立4校 + 市立2校 計6校 | 不登校経験者 特別な支援が必要な生徒 家庭に事情がある生徒 | 1 昼間定時制へ進学を希望する生徒の増加 <ul style="list-style-type: none"> 自分のペースで学べるため、不登校経験者から人気が高い。 前期：募集人員576人 志願者790人 志願倍率1.37倍 後期：募集人員90人 志願者89人 志願倍率0.99倍 2 地域バランスの偏り （名古屋）市立中央高校（40人×4学級）・城北つばさ高校（40人×3学級→4学級） （尾張）一宮起工科高校（40人×2学級）（西三河）刈谷東高校（40人×5学級） （東三河）御津あおば高校（20人×1学級（2023～））・市立豊橋高校（40人×4学級） | 2 旭陵高校の通信制を適正規模へダウンサイジング ⇒通信制の本校に通学する生徒：320人/学年→2025年280人→最終的に240人へ | | | | | | | | |
| 夜間定時制 県立25校 + 市立3校 計28校 | 外国にルーツをもつ生徒 | 1 外国人生徒への日本語指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> 外国人生徒の多くが、日本語によるコミュニケーション能力が足りない。 外国人生徒支援員は母語支援が中心で、日本語の指導が足りない。 | 3 刈谷東高校の昼間定時制・通信制を適正規模へダウンサイジング ⇒昼間定時制：5学級/学年 → 2025年4月4学級 → 最終的に2～3学級へ 通信制の本校に通学する生徒：200人/学年→2025年160人→最終的に120人へ | | | | | | | | |
| | | 3 刈谷東高校の大規模化の解消 <ul style="list-style-type: none"> 様々な事情を抱える生徒への丁寧な対応が困難である。 4 スクールカウンセラーやキャリア教育コーディネーターなどの専門家が非常駐 | 4 相談・就労支援体制の充実 ⇒スクールカウンセラーやキャリア教育コーディネーターなどの常駐化を検討 | | | | | | | | |
| | | | 1 日本語の基礎を学ぶための夜間中学を豊橋工科高校に設置（2025年4月開校） <ul style="list-style-type: none"> 各学年1学級10人程度 全体で10～30人程度。（定員なし） 義務教育を十分に受けずに中学を卒業した人の学び直しにも対応。 ⇒外国人が多く居住する名古屋市や尾張地区、西三河地区への設置を検討 2 「若者・外国人未来塾」の活用（現在、県内9箇所を設置、週2日、平日・土曜日の午後2時間） <ul style="list-style-type: none"> 平日、夜間定時制に通う生徒が、平日・土曜日の午後、「若者・外国人未来塾」のサポートを受け、日本語習得を目指す。 3 相談・就労支援体制の充実（再掲） | | | | | | | | |

※「課題を抱える生徒のイメージ」には、多様な課題のうち特に喫緊の課題となっているものについて記載してある。

2 通信制・昼間定時制の配置図（イメージ） ～不登校や中途退学の経験者等の学びの場の充実～



【通信制の本校とサテライト校の比較】

| 区分 | 本校（旭陵・刈谷東） | サテライト校（イメージ） |
|--------|----------------------------|--------------------------------|
| スクーリング | 週1回程度通学 | 週数回通学可能、本校のみで開講する科目は本校で受講 |
| 添削指導 | 本校でスクーリングを実施する科目について添削指導する | サテライト校でスクーリングを実施する科目について添削指導する |
| 試験 | 年2回 | 年2回（サテライト校で受講する科目） |
| 単位認定 | | 本校で行う |

3 夜間中学の設置

現在、本県では、財団による「**中学夜間学級**」が運営されているが、**教育機会確保法**を踏まえ、**外国にルーツをもつ生徒の教育の充実を図るため、外国人が多く居住する地区の夜間定時制高校に「夜間中学」を設置する。**

(1) 国の動き

ア 法律の制定（2016年12月14日公布）

義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律第14条（就学の機会提供等）

地方公共団体は、学齢期を経過した者（その者の満六歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから満十五歳に達した日の属する学年の終わりまでの期間を経過した者をいう。）であつて**学校における就学の機会が提供されなかったもの**のうちその機会の提供を希望する者が多く存在することを踏まえ、**夜間その他特別な時間において授業を行う学校における就学の機会の提供その他の必要な措置を講ずるものとする。**

イ 子どもの貧困対策に関する大綱（2019年11月29日 閣議決定）

全ての都道府県に少なくとも一つの夜間中学が設置されるよう、また、人口規模や都市機能に鑑み、全ての指定都市において夜間中学が設置されるよう促進する。

ウ 菅総理大臣の国会答弁（2021年1月25日 衆議院予算委員会）

今後5年間で**全ての都道府県・指定都市に夜間中学が少なくとも1つ設置**されることを目指す。



[文部科学省の見解]

政令指定都市のある道府県は、政令指定都市に1校、政令指定都市以外の県域に1校

(2) 愛知県の「**中学夜間学級**」

- 1973年（昭和48年）から、県と名古屋市が協力・連携し、（公益財団法人）愛知県教育・スポーツ振興財団が運営。
- **文部科学省は、愛知県の中学夜間学級を「自主夜間中学」として取り扱っており、「夜間中学」とは認めていない。**

| | 夜間中学 | 愛知県の中学夜間学級 |
|-----|--|--|
| 目的 | 義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人や、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人、外国籍の人などの義務教育を受ける機会を実質的に保障する。 | 様々な事情により中学校教育を受ける機会を逃した人で、中学校卒業資格の取得を希望する人のために学習の機会を提供する。 (1973年開講) |
| 対象 | <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方 ・不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方 ・本国や我が国で義務教育を修了していない外国籍の方 など ※特例として不登校の学齢生徒を受入れることもある | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校を卒業していないこと ・義務教育修了年齢を超えていること ・愛知県内に在住であること |
| 定員 | 制限なし | 各学年 20名程度 |
| 年限 | 3年 (中2、3年生に途中入学も可能) | 2年 (名古屋市立北山中学校に籍を置く) |
| 授業日 | 週5日(月～金) 9教科指導要領を踏まえつつ、特別の教育課程の実施も可能 | 週3日(月・水・金) 、 18時～20時30分 中学3年間の内容を2年間で学習 |
| 施設 | 校舎(教室・図書館・保健室・職員室)、運動場・体育館 が必要 | 県教育会館内の教室 を使用 音楽、保健体育、技術・家庭は、北山中学校の特別教室、体育館を使用 |
| その他 | | 県の運営費補助 5,546千円 名古屋市の教員派遣 12人 在籍者 28人 授業料 無料 教科書 無償支給 |

(3) 豊橋工科高校への夜間中学の設置

- 豊橋市は、名古屋市に次いで、外国人が多く居住し、夜間中学で学びたい外国人のニーズが高い地域である。(2021年12月現在)

(参考)

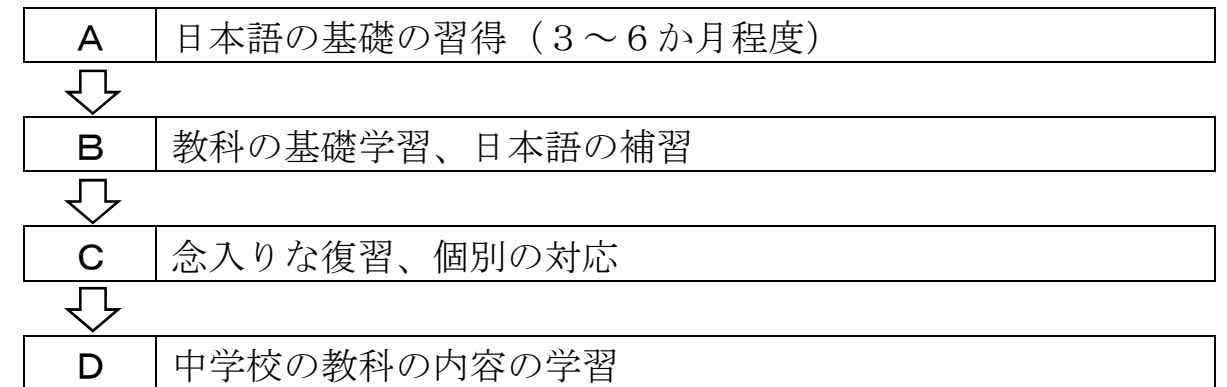
| | | | |
|------|---------|------|---------|
| 名古屋市 | 80,555人 | 小牧市 | 10,072人 |
| 豊橋市 | 18,929人 | 安城市 | 7,648人 |
| 豊田市 | 17,941人 | 春日井市 | 7,647人 |
| 岡崎市 | 12,282人 | 豊川市 | 7,161人 |
| 西尾市 | 10,220人 | 一宮市 | 6,842人 |

- 豊橋工科高校には、夜間中学設置のメリットがある。
 - ・すでに夜間定時制が設置されている
 - ・給食の提供が可能
 - ・外国にルーツをもつ生徒が夜間中学で日本語を学んだ後、スムーズに定時制高校に進学することが可能
 - ・交通の便がよい(最寄り駅より徒歩8分)

- ア 開校 2025年4月
- イ 設置者 愛知県
- ウ 生徒数 各学年1学級10人程度、全体で10～30人程度(定員なし)
日本国籍の生徒が2割、外国籍の生徒が8割
〔日本国籍の生徒の半数は60歳以上
外国籍の生徒はほとんど15才～39才〕
※国籍、年齢層については、文部科学省「令和元年度夜間中学に関する実態調査」から推計
- エ 教員数 専任の管理職1人、教諭10～15人程度、養護教諭1人、通訳など、合計15人程度
- オ 対象
 - ・義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方
 - ・不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方
 - ・本国や我が国で義務教育を修了していない外国籍の方
 ※特例として不登校の生徒が中学校に籍をおきながら夜間中学へ通うことも可能

カ 教育課程のイメージ

- 入学前の学習状況、日本語の習得状況に応じ、コースに分かれて学習する。

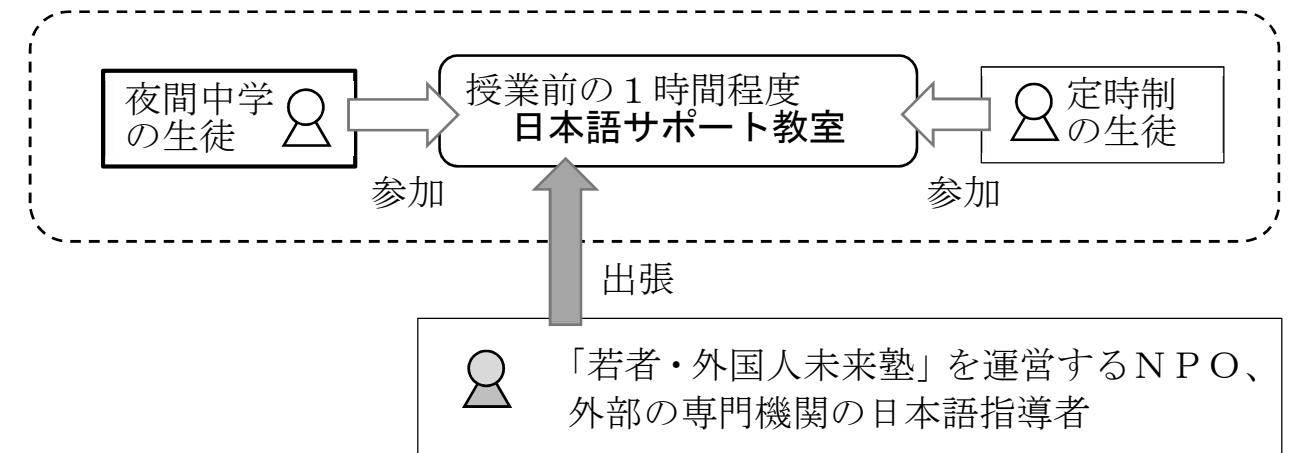


キ 施設

- 教室(ホームルームや特別教室)、図書室、保健室、運動場、体育館は、豊橋工科高校の全日制と共用する。
- 職員室は、既存の部屋を改修する。

ク 「若者・外国人未来塾」との連携

- 夜間中学の生徒、定時制の生徒の日本語習得を支援する。



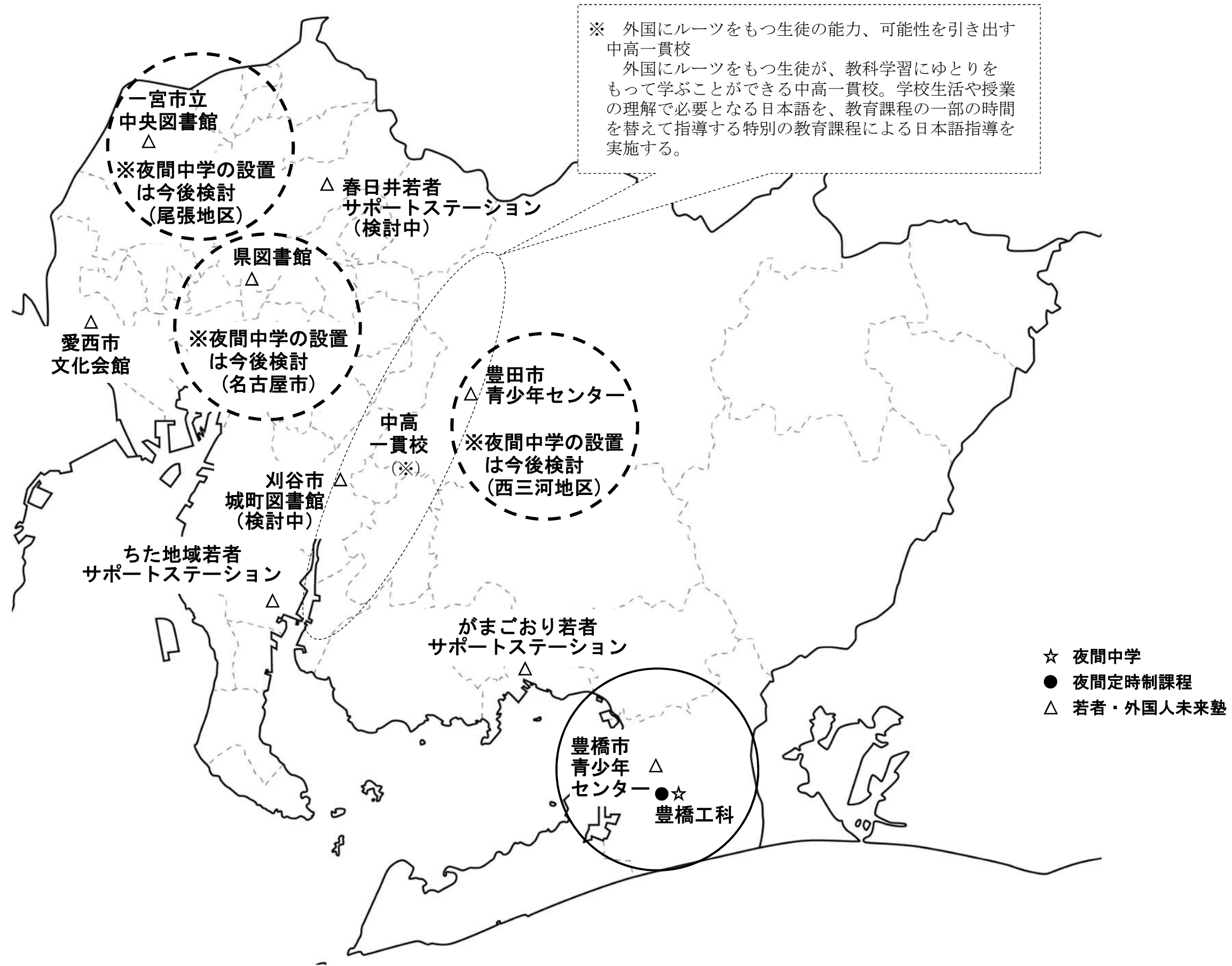
ケ 豊橋工科高校の夜間定時制への接続

- 外国にルーツをもつ生徒には、日本語を習得し、ものづくり企業への就職を希望する者が多いことから、高校で技術を身に付けて就職できるよう、夜間定時制への進学を支援する。

(4) その他の地域への夜間中学の設置

- 外国人が多く居住する名古屋市や尾張地区、西三河地区への設置を検討する。

4 夜間中学、夜間定時制、若者・外国人未来塾の配置
 ～外国にルーツをもつ生徒の日本語指導等の充実～



5 検討の経過・今後の進め方

(1) 検討の経過

| 年月日 | 検討内容 |
|----------------|---|
| 2022年 4月26日 | ○第1回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」(親会議) ・「新しい時代に対応した定時制・通信制教育のあり方検討部会」の設置について承認 |
| 6月1日 | ○第1回「新しい時代に対応した定時制・通信制教育のあり方検討部会」(部会) ・昼間定時制、夜間定時制、通信制それぞれの現状と課題について意見交換 |
| 7月4日 | ○第2回「新しい時代に対応した定時制・通信制教育のあり方検討部会」(部会) ・定時制・通信制に係る6つの論点を検討 ①通信制の配置、②昼間定時制の増設、③夜間定時制の役割や配置、④外国人生徒に対する支援、⑤不登校経験者に対する支援、⑥入学時期・卒業時期 |
| 7月25日 | ○第2回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」(親会議) ・昼間定時制、夜間定時制、通信制の今後のあり方について中間取りまとめ ①通信制のサテライト校設置、②小規模の昼間定時制をバランスよく配置、③不登校経験者に対する支援、④外国人生徒に対する支援、⑤キャリア教育の充実、⑥入学時期の弾力化 |
| 10月18日 | ○第3回「新しい時代に対応した定時制・通信制教育のあり方検討部会」(部会) ・定時制・通信制教育の見直しのイメージを検討 ①通信制のサテライト校設置の具体、②旭陵高校及び刈谷東高校を適正規模へ、③相談体制の充実、④夜間中学の設置、⑤若者・外国人未来塾の活用 |
| 11月11日 | ○第4回「新しい時代に対応した定時制・通信制教育のあり方検討部会」(部会) ・「定時制・通信制教育アップデートプラン(案)」について検討 ①通信制のスクーリングを行うサテライト校と小規模の昼間定時制・単位制を同じ学校内に設置、②旭陵高校の通信制を適正規模へダウンサイジング、③刈谷東高校の昼間定時制・通信制を適正規模へダウンサイジング、④スクールカウンセラーの常駐化、⑤キャリア教育の充実、⑥日本語の基礎を学ぶための夜間中学を設置、⑦「若者・外国人未来塾」の活用 |
| 11月24日 | ○第3回「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」(親会議) ・「定時制・通信制教育アップデートプラン(案)」について検討 |
| 11月28日 | ○「定時制・通信制教育アップデートプラン(案)」の発表 |

(2) 今後の進め方

ア ワーキンググループにおける具体的な検討

- 各学校ごとに、実務者によるワーキンググループを設置して検討する。
 - (ア) 通信制のサテライト校と小規模の昼間定時制を設置する学校
 - ・小規模の昼間定時制の教育課程の編成など
 - ・通信制のサテライト校の開設科目など
 - ・施設の活用方法など
 - (イ) 夜間中学を設置する学校
 - ・施設の活用方法など
 - ・外部機関と連携した日本語指導のあり方など

イ スケジュール

| 時期 | 説明内容 |
|------------|--|
| 2023年度 | ワーキンググループにおける具体的な検討 |
| 2024年度 春～夏 | 生徒、保護者への説明会の開催 (主な内容) ○通信制のサテライト校と小規模の昼間定時制を設置する学校 ・昼間定時制の教育課程 ・通信制のサテライト校の開設科目など ○夜間中学を設置する学校 ・入学方法 ・教育課程など |
| 2024年度 秋～冬 | 入学相談会の開催 |
| 2025年4月 | 開校 |



通信制・昼間定時制は、学校に行きづらい子どもたちの不安を取り除き、自分のペースで、将来に向かって、前に進んでいける学びの場を目指す。

夜間定時制は、外国にルーツをもつ子どもたちが、自分の持てる能力を伸ばしながら日本の生活に前向きになれる学びの場を目指す。

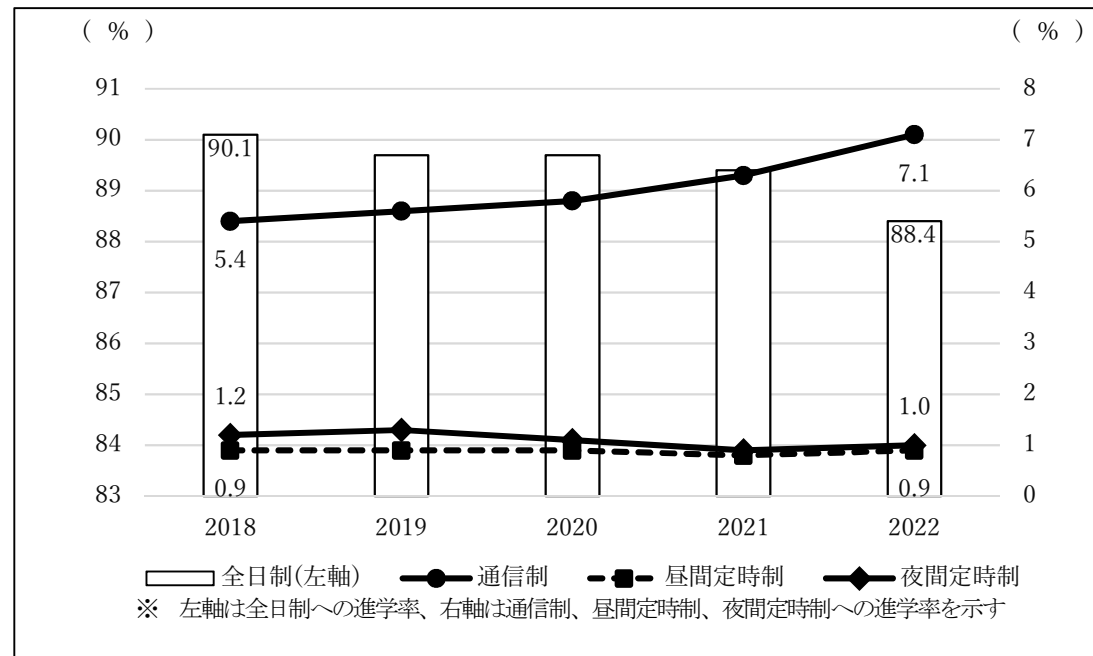
そして、「誰一人取り残さない」、一人ひとりの個性と能力を思う存分伸ばせる、学びの実現を目指す。

本県の定時制・通信制教育の現状

(1) 全日制への進学率が減少している一方で、通信制への進学率が増加傾向にあり、特に広域通信制の人気が高い。定時制への進学率は、夜間・昼間ともに大きな変化はないが、昼間については、志願倍率の高い状況が続いている。(グラフ1、表1)

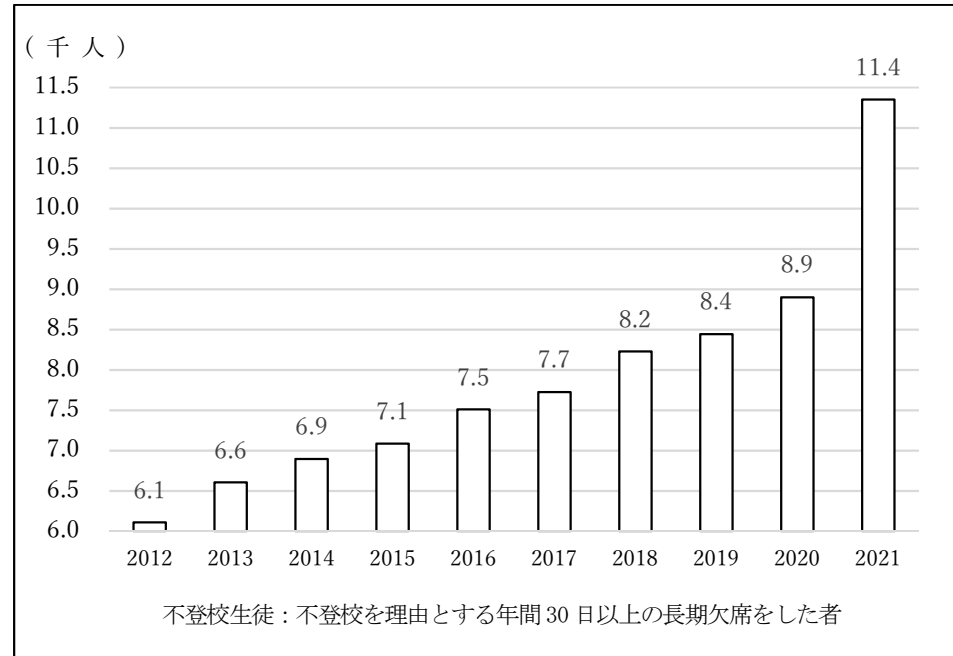
(2) 中学校における不登校生徒数が増加しており、定時制・通信制高校の入学者には不登校経験者が多くなっている。また、日本語指導が必要な外国にルーツをもつ生徒も増加しており、定時制高校（特に夜間）に入学する者が多い。(グラフ2、グラフ3、表2、表3)

グラフ1 県内中学生の進路実績の推移(%)



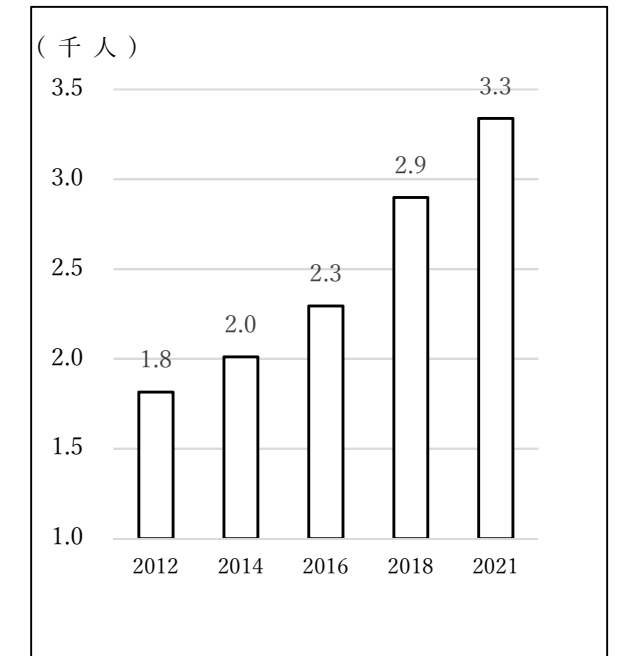
本県独自調査

グラフ2 県内中学校における不登校生徒数



児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

グラフ3 県内中学校における日本語指導が必要な生徒数



日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査

表1 公立定時制高校の志願倍率の推移

| 課程 | 選抜 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-----|----|----------|-------|-------|-------|-------|
| 定時制 | 昼間 | 前期 1.49倍 | 1.55倍 | 1.40倍 | 1.12倍 | 1.37倍 |
| | 後期 | 1.45倍 | 1.68倍 | 1.32倍 | 0.27倍 | 0.99倍 |
| 夜間 | 前期 | 1.00倍 | 1.03倍 | 0.84倍 | 0.69倍 | 0.79倍 |
| | 後期 | 0.39倍 | 0.44倍 | 0.23倍 | 0.10倍 | 0.23倍 |

本県独自調査

表2 県立定時制・通信制高校入学者における不登校経験のある生徒数

| 課程 | 2012 | 2014 | 2016 | 2018 | 2020 | 2022 |
|-----|------|------|------|------|------|------|
| 定時制 | 昼間 | 108人 | 125人 | 119人 | 153人 | 137人 |
| | 夜間 | 388人 | 376人 | 352人 | 338人 | 291人 |
| 通信制 | 130人 | 218人 | 130人 | 144人 | 151人 | 234人 |

本県独自調査

表3 県立高校で外国人生徒支援員による母語支援を受けている生徒数

| 課程 | 2012 | 2014 | 2016 | 2018 | 2021 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 定時制 | 昼間 | 6人 | 22人 | 26人 | 43人 |
| | 夜間 | 122人 | 157人 | 209人 | 291人 |
| 通信制 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |

本県独自調査

夜間定時制高校の配置図

夜間定時制高校 28校

- 【県立】25校
- ① 明和
- ② 城北つばさ
- ③ 名古屋西
- ④ 熱田
- ⑤ 名古屋工科
- ⑥ 瀬戸工科
- ⑦ 春日井
- ⑧ 犬山
- ⑨ 古知野
- ⑩ 小牧
- ⑪ 一宮
- ⑫ 津島
- ⑬ 半田商業
- ⑭ 横須賀
- ⑮ 大府
- ⑯ 豊田西
- ⑰ 豊田工科
- ⑱ 岡崎
- ⑲ 岡崎工科
- ⑳ 碧南
- ㉑ 刈谷東
- ㉒ 安城
- ㉓ 一色
- ㉔ 豊橋工科
- ㉕ 蒲郡
- +
- 【市立】3校
- 1 名古屋市立工業
- 2 名古屋市立中央
- 3 豊橋市立豊橋

▲夜間定時制（普通科）
 ■夜間定時制（職業学科）

